

キラキラ輝いてます！

—東日本大震災復興支援ボランティア編—

## どんな小さなことでも発信することが大切！

### 毛呂山台自治会

被災された人たちのために

「3月11日、東日本大震災の被災地を映像で見た時、言いようもない悲しさや虚しさ、悔しさに襲われま

届け！ 千羽鶴に込めたたくさんの想い

と語るのには、毛呂山台自治会の田村佳子さんである。被災した人たちが亡くなった方がたに自分で何かできることがないかを考え、亡くなった方がたの鎮魂のため千羽鶴を折ることを決意した。田村さんは、以前保育園で子どもを育てていた経験から、多くの児童が被災した石巻市立大川小学校に千羽鶴を贈ることにし、すぐに作業に取り掛かった。

そして、輪が広がる

それから間もなく、田村さんは自治会の副会長を務めることになった。そこで、自らの想いを横澤誠自治会長に打ち明けた。すると横澤自治会長から「そのような良い活動は、自治会をあげてやりましょう」と賛同してもらえた。そこから瞬く間に自治会から、毛呂山台の寿会、そして毛呂山台子ども育成会へと輪は広がった。鶴を折るのが初めてという人もいて、当初は思うように進まなかったが、各自が自宅に持ち帰り、時間が有るときには鶴を折るようになった。被災された人のために気持ちを込めて鶴を折る活動をとおり、皆の気持ちが一いつにな

り、今では自治会会員の絆が強まったように感じています」と横澤自治会長は語る。この活動の発起人である田村さんも「初めはひとりです。千羽鶴を折ろうと思っていました。でもひとりでは出来なかったと思います。協力をしてくださった自治会、寿会、子ども育成会の皆さんに本当に感謝の気持ちでいっぱいです」と嬉しそうである。

発信することが大切

寿会のメンバーのひとりには、「私は福島出身で、何かできることはないかと考えていたところにこの話が来て、とても嬉しく思いました。今も福島には兄弟が住んでいます。郷里のことを思いながら、一羽一羽心を込めて折りました」と語る。ま

た、子どもたちからも「今は、辛いかもしれないけれども、きっとよくなる日が来ると思うので、その日を信じて頑張りたい」との声を聞いた。鶴を折るといふ活動がそれぞれの中で被災地に対する想いとして結実した結果ではないだろうか。「被災地の方がたは今でも辛く大変な生活を強いられています。そのような方がたに私たち皆の想いが伝わることを願っています。また私の想いが皆さんと共有できたことも嬉しく思います。どんな小さなことでも発信しなければ伝わらないのだと思います」と田村さんは語る。

想いは届けられた

1月15日、皆が折りあげた鶴は完成した。その数は、2千5百羽を超えた。そして、1月28日毛呂山台自治会の有志で結成された被災地ボランティアによって、それぞれの想いが込められた千羽鶴は、大川小学校の慰霊碑に捧げられた。



全員の力で2千500羽以上の鶴を折りあげた毛呂山台自治会の皆さん



鶴を折る様子(上から自治会員、寿会、子ども育成会)